

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	発達教育学部 教育学科心理学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

心理学専攻の理念・目的は、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に明文化されている。平成29年4月1日試行の学校教育法施行規則により3つの方針の公表が義務付けられていることをふまえ、本専攻においても平成28年(2016)年度中に3つの方針を含む現行の「人材養成・教育研究上の目的に関する規程」の見直しを行った(平成29年4月1日改正)。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」について、中央教育審議会大学分科会大学教育部会によるガイドラインを踏まえた形に見直し、平成29(2017)年4月1日付で改正した。

・具体的な構成としては、本専攻が提供する学びとそれによって養成される人材を社会との接続も踏まえて示し、また、大学の教育目標から連なる学部の教育目標のもとで専攻の教育目標を展開する形としており、大学—学部—専攻の連関性の観点からも、当該基準を満たしている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」の内容は、国家資格「公認心理師」法案が成立し、これを受けたカリキュラムの変更に伴う、今後の教育効果の行方を見ながら、今後継続的に検討を行う必要がある。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

入門演習、心理学演習などの授業、卒業論文指導を通じて、心理学専攻の理念・目的についての理解を深める努力を行う。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」の内容は、国家資格「公認心理師」養成のカリキュラムの教育効果を見ながら、今後継続的に検討を行う。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

心理学専攻の理念・目的は、「学園要覧」「大学ホームページ」等において大学構成員のみならず広く社会に公表されており、オープンキャンパスや高校訪問、メディアを通じた広報活動においても積極的にその伝達・理解を図っている。また、大学構成員、特に専攻に属する学生に対しては、毎年度更新・編集されている「学習の手引」や履修ガイダンスやオリエンテーションを通じて、本専攻の理念・目的・教育課程、育成する人材像などについての説明を行っている。平成28(2016)年度学生実態調査におけるQ5「自分の所属する学科・専攻の教育目標や人材養成目標等を知っていますか」の設問に「はい」と回答した本専攻の学生の比率は22.8%となっているが、これは2014年度のアンケートが2択であったのが2016年度には3択に変更されていることを考慮すると、必ずしも比率が低下したわけではない。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

理念・目的が「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関する規程」として明文化され、広報媒体、学習の手引等の学内冊子によって統一的に掲載されている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

平成28(2016)年度学生生活実態調査におけるQ5「自分の所属する学科・専攻の教育目標や人材養成目標等を知っていますか」の設問に「はい」と答えた本専攻生の比率は、全体の平均値21.1%を上回り22.8%であるが、必ずしも高いわけではなく、改善を要する。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

入門演習などの1年次教育の段階で、本専攻の教育目標や人材養成目標等について理解を促す機会を設ける。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	発達教育学部 教育学科心理学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

心理学専攻の学位授与方針は、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表2「学位授与の方針」に定められている。「学位授与の方針」には課程履修にあたって修得しておくべき能力を、[知識理解][汎用的技能][思考・判断][対話・相互理解][社会性・自律性][自立性]の観点から具体的に明示している。また、「学位授与の方針」、大学ウェブサイトや「学習の手引」において広く公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表3「教育課程編成・実施の方針」を定めている。「教育課程編成・実施の方針」では「学位授与の方針」との関連性を踏まえ、回生ごとの教育課程の編成内容を示している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
心理学専攻では、教育課程編成・実施の方針に基づき、科学的に人間の行動や心を理解する方法論や、幅広い心理学についての知見を身につけることができるよう、各科目の連携・関連を図り、体系的な教育課程を編成し実施している。1年次では、心理学全般にわたる基礎的な科目を学ぶとともに、心理学研究法などの科学的な方法論の学習をスタートさせ、2年次からは発達心理学、対人社会心理学、認知心理学など幅広い心理学の領域について学べるよう授業科目が配置されている。3年次からは心理学演習など、本格的なゼミが始まり、それまでの学習を総合して、指導教員の個別指導を受けつつ、4年次にかけて卒業研究の完成を目指すという、体系的な編成となっている。 また、心理学専攻の教育目標と、設置されている授業科目との関係については、学生に配布されている「学習の手引」の中で、カリキュラム・マップや履修モデル等を通じて解説している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本専攻では、教育目標達成のために、全年次において1クラス30人以下の少人数演習科目を必修科目として設置しており、特に1年次の心理学入門演習(1クラス平均20人)では、大学での学びの基礎となる、図書館の活用、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションといったアカデミック・スキルや、批判的思考といった態度の習得を目的とし、共通テキスト「アカデミック・スキル」も活用して、初年次教育の充実を図っている。2年次以降は心理学文献講読等の科目でも少人数演習形式によるきめ細かな指導をおこなっている。 また、2年次から3年次にかけて、実験・実習科目を多数配置し、講義科目の中でもグループワークやディスカッション等のアクティブラーニングを取り入れ、授業への学生の主体的参加を促すよう工夫している。 履修指導については、必要に応じて個々の学生のGPAに基づき実施しており、今後は「京女ポータル」に搭載されたLMSや学修ポートフォリオも活用してゆく方針である。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 シラバスにおいて、「評価項目」「配分(%)」「評価の観点」等の評価基準を明らかにし、厳格な成績評価に努めている。提出された各学生の成績は、教務課・教務委員会によって確認・点検され、適切な単位認定が行われている。通知された成績について疑義がある場合の問い合わせ期間を設け、成績評価が適切に行われるよう取り組んでいる。 また、履修要項第42条の2に、「GPAが一定基準を下回った場合には、教員による面談を受けなければならない」と規定して成績不良者への指導体制も整備している。加えて、面談・指導後も一定期間にわたり成績の改善が見られない者に対しては、学修上の指導または各種勧告(改善勧告、休学勧告、退学勧告のいずれか)を行うことがあると定めている。 学生からの成績問い合わせ期間としては、各セメスターにおける成績発表後1週間を設定しており、期間中は単位不認定の科目に限り、教務課を通して授業担当者に問い合わせができる体制を整え、客観的かつ厳密な運用を行っている。 卒業判定は、本学学則第52条を踏まえて教授会で審議される。教務課において対象者を①卒業要件達成者、②再試・追試・卒業論文の再判定で卒業要件を満たす可能性がある者、③卒業要件を満たさない者、に区分した資料を提出し、これに基づき厳格な判定が行われている。なお、上記②の者については、再試・追試・卒業論文の再判定の結果に基づいて、再審議が行われる。学位授与(卒業判定)に係る基準は「学位規則」「学習の手引」や本学ウェブサイトに記載されており、教授会においてこれに基づき審議する。教授会は審議結果を意見として学長に伝え、最終的に学長が学位授与(卒業認定)の決定手続きを行っている。学位は所定の卒業要件を満たした者に授与されるが、本学学生は132単位以上の卒業要件単位総数だけでなく、必修、科目区分ごとの卒業要件単位を修得し、4年間の集大成として卒業研究・卒業論文を作成しなければならない。 教学IR データの成績分布においても、心理学専攻における2018年3月卒業生の専門科目においては、S:23.1%、A:38.5%、B:22.8%、C:11.2%、D:4.4%とバランスのどれた適切な評価がなされている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 学習成果を測定する評価指標として、本専攻では累積GPA、卒業率、大学院進学率、を重視している。本専攻の2018年3月卒業生の数値は、累積GPAの平均値2.69、卒業率91.7%、進学率31.7%であり、概ね教育目標に沿った成果が上がっている。なお、2017年より、ジェネリック・スキル測定テストや学修ポートフォリオ(京女ポータル)を導入しており、今後はこれらを活用した学習成果の把握・評価にも取り組み始めた。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 ジェネリック・スキル測定テストや学修ポートフォリオとカリキュラム・マップを用いた成果の把握に努める。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

教育課程及びその内容、方法の適切性については、専攻会議において、授業評価アンケートや学生生活実態調査、卒業時満足度調査の結果から検証している。授業評価アンケートについては、各教員はアンケート結果に対する「授業評価所見」を公表し、アンケート結果は授業改善に活用している。2016年度学生生活実態調査結果では、「授業評価などによる学生の意見が授業改善に反映されている」の数値が[0.09]とやや低い数値になっている。また、卒業時満足度調査結果の「専門的な知識が身につく授業が多い」[期待値46.2満足度25.6]、「将来の職業に役立つ知識・技術を身につけられる授業が多い」[期待値28.2満足度12.8]のポイント差から、より実践的で将来の職業に役立つ知識・技術を身につけたいという学生のニーズに応えられていないことがあきらかとなった。また、これら以外にも、授業改善や学生のニーズを知る努力として、全学のFD講演会への参加、公開授業の実施、専攻独自で行うFD研修会を挙げることができる。

これらのデータは、次年度のシラバスを決定する際や担当者を決定する際に用いられるだけでなく、4年に1度実施されるカリキュラム改革において、それを方向づける重要な資料となっている。本専攻では、国家資格である公認心理師受験資格に対応したカリキュラムを2018年度入学生から適用できるよう、カリキュラム改革に取り組んだ。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

公認心理師受験資格に対応できるようカリキュラム改革を行った。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

複数の評価指標を用いて学習成果を多面的に評価する。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	発達教育学部 教育学科心理学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表4「入学者受け入れの方針」において、求める学生像や修得しておくべき知識を明示し、その内容は大学ウェブサイトや募集要項で広く社会に公開している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の学生募集では、募集人数に対して十分な競争的環境を保つ受験者数を確保している。入学者選抜は、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般選抜、社会人特別選抜、AO入試、一般編入学試験、推薦編入学試験があり、いずれも専攻の定めた入試科目や方法に従い、受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に行われている。AO入試は本専攻では初の実施であったが、募集人数2名に対して9名の受験者を得て、小論文・面接によって多面的に評価し、本専攻の求める入学者を選抜することができた。 入学定員に対する超過率は、平成28年(2016)年度入試において107.3、平成29年(2017)年度入試において118.2、平成30(2018)年度入試では112.7と推移している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 初めて実施したAO入試については、点数配分、選抜方法などについて、小論文や面接の方法等の改善点があるため、次年度入試に向けてこれらの改善に取り組む。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 学生の受け入れ(学生募集・入学者選抜)に適切性については、全学入試委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜、学部教授会に報告されるとともに、必要に応じて専攻会議で審議している。これを受けて、学部選出教員1名が全学の入試制度委員会に出席し、本学部の個別的観点に基づく学生募集および入学者選抜の在り方について意見を述べ、全学的なレベルでの調整に貢献している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	発達教育学部 教育学科心理学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学として求める教員像は「京都女子大学教員資格審査規程」「京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規」等に明記されており、また「大学の求める教員像および教員組織の編制方針」として大学ホームページでも公表されている。本専攻では、教育内容および研究対象領域を踏まえて教員像を明確にし、教員組織は教育課程および研究領域を踏まえてその編制方針を定め、教員人事(採用・昇格)に当たっている。具体的には、専攻会議で公募採用人事案を策定し、学科主任の承認を得た後、全学の人事委員会の審議・了承を得ている。

教員組織の編制方針については、心理学教育をめぐる全国的な動きを念頭に置きながら、どのような組織が社会がそして学生が望むものであるのかを考えながら立案している。とりわけわが国の心理学教育は、国家資格「公認心理師」の法案成立を受け大きく変わろうとしており、本学の心理学専攻でもどのような教員組織編制が適切であるかを議論している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

求める教員像および教員組織の編制方針が、規程として決定し、ホームページにも掲載されている。また本専攻は、人文・社会・自然科学にまたがる多様な研究領域の教員から成る組織であるため、教員人事に関わる事案については可能な限り幅広い研究領域の教員が議論して選考を行うことで、教員像や教員組織についての理解を相互に共有している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

心理学の全領域をカバーするには、まだ人員不足である。また、国家資格「公認心理師」のカリキュラム実施に際して、実習指導教員が不足する事態が想定される。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

国家資格「公認心理師」のカリキュラム実施に向けて、必要な領域が専門の人材の補強を行いたい。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

今後、国家資格「公認心理師」のカリキュラム実施に際して、実習指導教員が不足する事態が想定される。これについて助教ポストの準備等によって対応する必要がある。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻の平成29(2017)年度における教員数は8名、年齢構成は60代が4名、50代3名、40代2名で平均年齢は55.4歳、男女比は男性5名/女性3名、教授4名、准教授4名という構成である。専任教員一人あたりの学生数は32.0人(在籍学生数ベース)である。外国人教員は所属していない。担当コマ数の平均は、16.0となっている。

心理学専攻開設科目総数に占める専任教員の担当科目の比率(専兼比率)は68.0%(開講コマ数ベース)となっている。必修科目の84.6%(開講コマ数ベース)は専任教員が担当している。

専攻としてのカリキュラム・ポリシーを踏まえ、基礎心理学領域、臨床心理学領域で構成される教育課程・開講科目に対し、実験心理学、認知心理学、社会心理学、教育心理学、神経心理学、発達心理学、発達臨床心理学、臨床心理学等を研究分野とする教員を配置しており、担当科目と各研究分野が整合するものとなっている。教員組織とそれぞれの研究分野については、「大学案内」や「大学ホームページ」に公表されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

教員の年齢構成にやや偏りがあるため、今後若い教員の採用を検討する。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員の募集・採用・昇格に関しては、「京都女子大学教員資格審査規程」および「内規」に基準が明文化されており、本専攻においてこれらに則って教員人事の審査がなされている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 本専攻においては、教員の募集・採用・昇格に関して「京都女子大学教員資格審査規程」および「内規」に則って適切かつ透明な手続きにより、教員人事の審査がなされていると評価できる。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ・本専攻では、教員の教育面での資質向上のために、全学および専攻独自で実施されるFD研修への参加を積極的に奨励しており、授業公開と参観についても、専攻会議等で積極的関与を促している。本専攻教員の全学FD研修会等の参加状況は、平成29(2017)年度で、8人中平均8人(学科教員中100%)が参加であった。授業公開の実施状況は、2人であった。 ・教育活動(授業の分かりやすさ、履修指導、学生の意見のフィードバック等)に対する学生の満足度については、「授業アンケート」や「学生生活実態調査」を基に、専攻内FD活動として専攻会議で検証している。また、全学で行われている「授業アンケート」の他に、本専攻独自のアンケートを平成28(2016)年度、平成29(2017)年度に実施し、結果を分析中である。 ・教員の研究活動については、教員業績データベースへの入力を教授会等で促しており、教員の論文等の発表媒体として『発達教育学部紀要』を毎年度刊行している。 ・平成28(2016)年度からは「京都女子大学教員業績評価に関する規程」に基づき、前年度業績の評価を行い、学部長・学長による評価を受けて改善活動等に取り組んでいる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 現状説明に挙げたように、専攻として独自のFD活動に取り組んでおり、基準を満たしている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 授業公開の実施が現状では少ない。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 昨年度に引き続き、専攻内FDを継続実施する。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 授業公開と参観については、現状のような自発的参加型では限界があるので、モデル授業を指定するなどの方策の導入を検討する。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
毎年度の自己点検評価活動の他、専攻会議におけるカリキュラムの検討等の中で、教員組織の適切性について検討する機会を設けている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)
問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見